

千葉県警による 新たな弾圧・組織破壊攻撃を、怒りをこめて弾劾する！

千葉県警は、今、何故に二年も前の裏切り分子「本部派佐倉支部」・小川建二への糾弾・追及行動を「監禁強要」としてデッチ上げ任意出頭攻撃を行ってきたのか。

第一に、右傾化・産報化する日本労働運動の中で、「三里塚を闘う労働運動」は、三・六集会二〇〇名、三・二八集会に二六〇〇名に見られるようにわが動労千葉を先頭に確実に、全国の闘う労働者の心をとらえ、共感と連帯と決起をつくり出している。

体制的危機をますます深める政府・権力は、壮大な労働者階級本隊の総決起を、わが動労千葉の闘いの中によりとり、これを芽のうちにすみ取りとする新たな動労千葉破壊攻撃をかけてきたのである。

第二に、わが動労千葉に対する権力の階級的にくしみを込めた不当弾圧攻撃である。

わが動労千葉のこの二年余の闘いは、およそ、戦後労働運動では全く考えられなかったような反動攻撃との闘いであった。

この間の「本部」革マル反動分子との激烈な組織闘争。

八・三ジェットストの貫徹。そしてこの歴史的闘いに対する四名の解雇・二二五名の大量不当処分。六・一二デッチ上げ告訴、不当逮捕・起訴攻撃。そして、三・二七不当家宅捜索……など。

われわれはこうした国鉄当局・権力・「本部」革マル反動分子一体となった密集した反動に対し、その都度、全力で反撃し、敵の攻撃を一つ一つ粉碎し、前進してきたのである。

第三に、今日の「国鉄労働者国賊」「ヤミ・カラ・悪慣行」キャンペーン、「行革」・第二臨調攻撃に国労・動労などが総屈服する中で、権力は

千葉県警・佐倉署は、二年も前の八〇年七月五日、「本部派佐倉支部」・小川建二に対するわが動労千葉の糾弾・追及行動について、「監禁強要」をデッチ上げ、三名の仲間に任意出頭攻撃をかけてきた。

八二春闘の最只中、この卑劣な権力・動労「本部」革マル反動分子一体となった攻撃を絶対に許してはならない。昨年の六・一二デッチ上げ告訴、不当逮捕攻撃粉碎に総決起した全支部・全組合員の怒りを再び結集して反撃し、粉碎しよう。

2年も前の「本部」派への糾弾・追及行動を、監禁強要とデッチ上げた、任意出頭攻撃を粉碎せよ！

「動労千葉破壊のチャンス」として攻撃をかけてきているのである。

「本部」革マル反動分子の密告・タレコミを糾弾する

ここにわれわれは、権力と一体となった動労「本部」革マル反動分子の密告・タレコミに怒りを込めて糾弾しなければならない。

「本部」革マル反動分子は、国鉄再建三三万人体制攻撃に屈服するばかりか、「働こう運動」を全組合員に強制し、職場闘争を圧殺し、職場規律の確立を率先して実行している。

しかも、彼らはこの間、再三再四、動労千葉破壊のために権力に密告し、タレコミを積極的に行なってきたのである。

今回の「任意出頭」攻撃も「本部」革マル分子・小川建二のタレコミによってなされたものである。

全力で不当弾圧を粉碎しよう

全組合員の皆さん！

今回の権力の「任意出頭」攻撃を絶対に軽視してはならない。

権力・動労「本部」革マル反動分子一体となった動労千葉破壊の狙いを見すえ、全力で反撃しよう。



全組合員・家族の強固な組織破壊攻撃を粉碎せよ！

日刊 動労千葉

82.4.15

No. 1020

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（会費）四二七・七